

平成 30 年度第 4 回日の里地区コミュニティ運営協議会
組織改革特別委員会 議事録

日時：平成 30 年 8 月 9 日（木）19：00～20：30

会場：コミュニティ・センター日の里会館
コミュニティルーム

◆組織改革特別委員会委員長挨拶（黒川委員長）

本日は前広報部会長からご意見を伺い、その後、広報部会について結論を出したいと考えておりますが、その前に、委員 18 から発言の要望がありましたので、それを伺うことにします。

◆議事

【委員 18】（資料 1 及び 2 を配布）今回の改革の全体像が見え難くなっているため、この資料で簡単に整理します。資料 2 ページ目“日の里ホームページにアーカイブされている協議会の主要事案（考察）”をご覧ください。横軸が第一次と第二次のまちづくり期間で各 10 年間です。縦軸が主な案件で、第 1 項/日の里まちづくり構想計画、第 2 項/協議会の組織改定、第 3 項/日の里ホームページ開発、これらが、各々、第一次から第二次へとつながっていると思います。第 1 項の第一次日の里まちづくり構想計画は、大学を含むワークショップ方式で、委員会には、全役員・各部会・PTA・子ども会等の各代表が参加したため、中身の品質はかなり高いものになっていると思います。この第一次に、第二次のまちづくり構想計画を付加したものが、現在の大まかな住民ニーズを反映したモノだと思います。第 3 項/日の里ホームページ開発では、今回、平成 30 年 4 月に稼働した新しいホームページは、約 13 年前の旧ホームページの目的・目標などを発展・継承しています。ところで、第 2 項/今回の協議会の組織改革委員会は、平成 16 年度以降、20 年間に計 2 度目の数少ない機会、平成 35 年くらいを対象期間とした組織改革かと思います。今回の改革の要件として、現行の「住民参加型」のまちづくりの仕組の発展継承ということで、残すモノ、変えるべきモノの峻別。今現在、そのような方向で進んでいるかと思います。最初に資料 1 ページ目“日の里の地域特性、独自性：「住民参加型」のまちづくりモデル（考察）”を見てください。これは一番下の左側にある、人と仕組（組織体制・組織運営）、ホームページ（情報）を一体運用するとどうなるかということです。協議会の目的は、資料 1 ページ目の右上にあるように、中長期的なまちづくりの構想・計画及び年次の事業計画・個別事業などを「住民参加型」で推進することだと思います。これをいかに進めるかを私は基本的に次のように理解しております。まず一つは、「協議会と役員会」と「組長会議」との間の双方向の情報の流れ（役員会ルート）、二つ目は、各部会・部会全体会議には組長などの住民代表が参加しておりま

すので、この組長会議とのやり取り（部会ルート）、これはまさに住民の声を代表しているので、この２つのルートを活用して、双方向の情報を回す。さらに、日の里ホームページへ、各組織が必要な情報を投稿して、それを基にそれぞれの組織や住民が活用し、自立的に「まちづくりに参加する」という大まかな流れになるかと思います。資料右下に「日の里ホームページの期待効果」を挙げておりますが、中長期的にこのような内容が成立するのではと思っております。これは、今回の組織改革を基に、人と仕組（組織体制・組織運営）、ホームページ（情報）などを一体運用したらどうなるかを例として整理してみました。

【黒川委員長】ありがとうございます。広報部会になるのか、広報委員会になるのか、分かりませんが、このことは、部会の中でしっかり議論していただければいいのではないかと認識いたしました。

【委員 21】広報部会の中だけで議論すればいいですか？

【委員 12】いえ、この議論は広報部会の在り方の中で出てくると思います。組織図の中で広報部会をどう位置づけるかは重要ですから、前は色々説明していただいて、議論が少し発散しすぎた感がありますから、広報部会の在り方についてはまた別の機会に焦点を絞って議論すべきです。

【黒川委員長】分かりました。先々の議論としたいと思います。それでは、前広報部会長からご意見をお伺いします。よろしくお願いします。

【前広報部会長】まず申し上げたいのは、理念は黒川さんや浦さんが色々考えられれば良いでしょうが、新聞というのは、理念ではできないのです。実際に原稿を読み、手を入れ、そして形にする。この作業がないと、新聞にはならないわけです。私たちは現場派・現場主義のため、具体論でしか議論したくない。広報部会を広報委員会に変えると会長から提案があった時に、まず一番に反対意見を申し上げたのが私だったのはご承知だと思いますが、なぜしなければならないのか、説得力がゼロだった。あの時、意見を申し上げた。その後も会長は広報委員会にして、協議会直属にするという方針なら、それはあなたの方針として良いでしょう。何年か前に広報委員会が広報部会になり、また今度は元の広報委員会に戻そうと言う。どういう意図を持って言われているのか。その回答を聴く機会が今までなかったのです。黒川さんが広報委員会を協議会の直属にして、改革するという提案をなさったのは、任期が３分の２を過ぎた頃だった。それを決めようとなさった時、私は何も聞いてなかったから、まず反対の意見を述べたら、何人かの町内会長さんも賛成なさった。しかし、その後も黒川さんの「広報委員会にしないといけない」という主張はあの時の提案以上は出てないんじゃないか。何を今さら変えなきゃいけないのか、いまだに分からない。自分がよく理解もできない、理由も分からないものに、賛成することはできない。私はあくまでも現場の者です。だから、あなたが広報委員会にして、組織改革するというなら、協議会会長の権限を使ってなさって結構です。編集の仕事は今とは関係ないのですが、１年やってみて、いささか、まだ独り立ちで

きているような感じではないから、あと1年間はボランティア精神でやっているわけです。だから、勝手なようですが、私にとっては何の意味もないと思われる組織改変から私はこれで失礼させていただきたいと思っている。

【浦副委員長】今日お出でいただいたのは、前回の委員21の発言で、“この広報委員会の案を広報部会で話し合った時に、前広報部会長が「この案で毎月きちんと広報が発行できるのか、その担保があるのか？」前広報部会長の意見を伺ってからの方がいいと思ってるんです。9日に話を伺ったうえで、委員会にするかどうか”を決めたいとおっしゃってました。この時に広報委員会の会則、部会則と呼んでも良いわけですけど、その会則についてもご意見を伺って決めたいということが主旨なので、こちらの主旨についてもお話を伺えたら、ありがたいと思います。

【前広報部会長】今おっしゃったことの筋から言えば、別にないのですが、私も30年新聞記者をやってまして、色々な所へ取材に行きました。そして、元気のない、つまらない組織に限って組織いじりをしたがる。これは共通してましたね。

【浦副委員長】それはお伺いするとして、例の会則そのものについては、ご意見ございますか。広報委員会の会則に、例えばホームページの委員に入っていた方が、委員18がおっしゃったように、ホームページの意義は将来に亘って重要なこと。それと、広報部会にはそういう委員が入って、役員会とのパイプを繋いでおいた方がいいだろうと思うので、会則案になっているわけです。そこはどうお考えでしょうか。

【前広報部会長】私が広報委員会でホームページに就くということですか。これほど不適任はありません。私は全然やらないんだから。情報を入れたり、出したりするんですよ？

【浦副委員長】それなら、もうお任せいただいて良いということですか？ホームページをやる方にはお任せするという事でよろしいですか？反対という意味ではないですか？

【前広報部会長】私はそうです。それこそ、何にも知識を持ってないのだから、答えようがないです。反対も賛成も知らないのだから。聞く方が楽だからね。

【浦副委員長】分かりました。

【委員21】私が発言したのは、広報委員会の会則で、ホームページに関しては、この間も話し合いで色々提案をして、ほぼその内容を活かしていただけたという話だったんですけども、広報日の里の方は「毎月発行する」と書いてある。だけど、この体制で本当に毎月発行することが担保できるのかという所を心配しているのです。今までのやり方で発行できてきたんですね。その中で色々な負担があるとか何とかといった話はあるんです。従来の体制でできてきたことが委員会に変わることによって、本当に毎月広報が発行できるのか、この規約で想定できるのかどうかを、ぜひ、提案者にお伺いしたい。

【浦副委員長】それは前回、前広報部会長からお話を伺うということだったのですか？

【委員 21】 もちろん。だから、今おっしゃったことだと思いますよ。

【委員 14】 前広報部会長が広報日の里の編集に関わっていただいて、非常に良くなったと感謝しています。今日、来ていただいて、今おっしゃっているのは、ホームページについて、自分は活用もしてないし、構わないよということを言ってるんですね。それについては、2回程議論しているので、それで進めていただいたら良いと思います。あと、もう一点は、広報部会を広報委員会に再編集するということには、ご自分は反対であると、おっしゃっているんですね。部会にするか委員会にするかというのは、まだ議論が進んでいないんです。ですから、今日は前広報部会長としては、個人的に「変えなくていい」という意見があったとして承ればいいんじゃないでしょうか。次の段階で議論すれば良い。というところで進めていただければいいんじゃないでしょうか。

【黒川委員長】 他の方、意見はありますか？

【前広報部会長】 私が黒川さんをお願いしたいのですが。「他の町の発行している新聞を見たら良いのがある」と、以前私に東郷のを見せられたことがありましたね。あれを見て、担当している女性が非常に勉強して書いているな、と感服しました。ところが、東郷みたいな歴史や伝統もない日の里では、あれを真似しようと思っても、できっこないわけです。他の各町から毎月出される広報誌を取り寄せて、我々広報の実務作業する者も見られるよう、措置を取ってもらえませんか？それはすぐできることでしょうか？我々もそれを見て勉強にもなるだろうし、参考にもしたいと思います。ぜひ、取り寄せていただきたい。私たちは現場ですから、極端に言えば、広報部会や広報委員会はどちらでも良いんですよ。どう名前を付けようと、どんな組織にしようと、ご勝手に言っても良いんですよ。

【委員 12】 記事の基になる各町内からの色々な情報を出すためには、各町内の代表が広報関係の部会または委員会に、出て来ていただくのは非常に重要なことです。そういった場合に、部会の形式が良いのか、それとも、町内会長が町内で委員的な人を探すのが良いのか、ですね。あと、去年は部会長として非常にふさわしい前広報部会長がおられたが、継続性という意味で、どういう風に部会長になる方を選んでいくのか、そこら辺にかかってくると思います。今の部会の形式がやりやすいということであれば、今のままで良い。ただ、先程の委員 18 の広報に関する位置づけを見ますと、広報部会は他の部会に比べると、全体を見ながら、方向性を指し示すような要素がある気がします。役員会と言うと、会長と副会長を中心とした会のようなイメージを持つかもしれませんが、前回も言いましたが、実質的な運営委員会は、今の役員会だと思います。今の役員会は、協議会の評価委員会になっているので、そこの辺りを明確にして、各会の定義を明確にして、広報に関する担当者をどこに置くのが一番良いのか、委員長はだれがやるのが良いのか、そういう観点でやらないと、なかなか結論は出ないのではないかという気がする。

【前広報部会長】 これは、黒川さんがおっしゃりにくいかどうか分かりませんが、そも

そも広報部会を広報委員会に改組しようという発想は、どこから起きたのですか？

【黒川委員長】僕は広報部会の全体会議に一回しか参加させていただきませんでしたが、全体会議は全町内の委員、構成団体の方々、各部会、総勢 35～40 名くらいが集まっていたのですが、年間の編集方針、すなわち、どこが何月を担当するのかが既に決まっている状態でした。しかし、年間の編集方針はそこで決め、どういう方向性に持っていくかを話し合う必要がある。さらに、今はどちらかと言うと、町内の活動が主な記事になっているのを、もう少し協議会が独自でやっている部会の記事にシフトしていただければ、協議会が年間を通して、こういうことをやっている、ということがよく分かるのではないかと、思っていました。それから、実質的に現場でやってる方は 7 人で、必死に記事を割り振りされています。委員会にして、もっとこじんまりとして、担当を決めてやる方が良いのではないかと思います。全町内のやっていることに関しては、せっかくホームページも作ったことだし、そこに主眼を置いていけば良いのではないかと思います。もう一つは、今は割り振りして、業者にお渡ししているのを、コミセンのパソコンで全部割り振りして、ここで記事ができて、印刷になれば、今は 10 日が締切だと思いますが、それをもっと後の方に伸ばすことができ、よりタイムリーな情報が出てくるのではないかと考えたところです。

【前広報部会長】編集は経験豊富な広報誌担当がしてくださっているので、印刷業者の手を煩わせておりません。印刷業者に出す時には編集の絵を書いて渡しているのだから、印刷業者は印刷するだけです。

【浦副委員長】非常に専門性が高いから、むしろ、委員会の方がよろしいのではないですか？

【前広報部会長】それが私には理解できない。部会と委員会はどう違うの？

【浦副委員長】部会だと、原則的に役員から部会長を出すでしょう？町内会長が広報部会長をするわけです。あるいは、副部会長もそうなりうるわけです。そうすると今、前広報部会長が残っていらっしゃるように、非常に専門性の高い方が残るという意味では、委員会の方がより合理的、理屈にも適っているし、良いのではないかとというのが私の考えです。部会だと、今年も広報部会長のなり手がなくて、何をやっているか分からないと毎年おっしゃっているとお聞きします。それだったら、専門性の高い人がやる方が、全部が分かるし、良いのではないかと。

【前広報部会長】専門性が高い者が委員長になるとは言っても、委員長になったって専門性のある者がおるとは限らないでしょう？

【浦副委員長】いやいや、だからそういう人をなるべく選ぶわけです。町内会長から選ぶよりは、より選びやすいのではないかと。

【前広報部会長】もう一切、町内会長の枠をはずして選ぶというわけ？

【浦副委員長】委員会はそうです。

【前広報部会長】日の里の住民の中の適任者を広報委員長にしようというわけ？そこま

での覚悟がおりなの？

【委員 16】元々この委員会が発足したのは、町内会長＝コミセンの役員ですね。役員の仕事が多いから、仕事量を減らすために、検討しようというのを議事録で見たんです。そしたら委員会に変われば、役員は部会長にならなくて良いわけですよね？

【黒川委員長】部会長もそうしたい。

【委員 16】部会長が町内会長になれば、町内会長の責務を減らすことにならないではないですか？

【黒川委員長】そうです。

【委員 16】ということは、部会を変えるということは、町内会長ではなく、専門職の者を一般から採用して、部会長になってもらうというのが理想かもしれない。しかし、今度は部会長がずっと継続して上手く流れていくのが心配ですね。今までは強制的に役員に割り振っていたでしょう？そして、前部会長が副部会長としてサポートして部会を支えていたのが、逆に町内会・役員会がサポートに行かなくて良かったら、コミセンの役員会の仕事が減って、町内会長の仕事は減るかもしれないが、私の考えでは、元に戻って町内会の仕事は逆に増えるのではないかと？話が変わるが、教育文化部会が2つに分かれるでしょう？部会長が1人いれば良かったのに、2人必要になるでしょう？各町内の業務は逆に増えるのではないかという気がする。役員の仕事量をいかにして減らすかというのが議題となって、この委員会ができた記憶するのですが、役員がどれだけ楽になるかという考えをまず考えないと、変えた部会をどう進めるのかはその後のことでしょう？実際に委員会にしたら、役員の仕事が減って楽になるかもしれないが、委員になる人は大変ですよね？そして、委員の人は役員会のメンバーにならないといけないのでしょうか？

【黒川委員長】委員長はそうです。

【委員 16】役員も増えるわけですよね。役員が増えたら、今度は会長が大変ですよね？役員会の会長は誰かがならないといけないんだから。

【黒川委員長】元々、部会長も役員になっており、町内会長が部会長をやらなければならないわけではなかった。

【委員 16】例えば、広報委員会の委員長も役員になってもらわなければならないのでしょうか？

【黒川委員長】なることになる。

【委員 16】ということは、役員が増えるわけでしょう？

【浦副委員長】役員は増えるけど、町内会長の仕事はしなくて良いわけです。

【委員 16】町内会長の仕事は減るが、要するに代行してもらうから、役員会は1人増えるということですよね？

【黒川委員長・浦副委員長】そうです、増えます。

【委員 16】役員会の仕事が全体的に忙しくなるということでしょう？

【黒川委員長】いや、そんなことはありません。

【委員 12】具体的に今、生活環境部会では、町内会長に適当な人がおられなかったですから、部会の中で経験者の方に部会長をやってもらい、町内会長ではないです。それから、教育文化部会も前部会長をされた方が今年もボランティアでやっていただいて、町内会長からなっているわけではないですよ。この傾向は、ここ 2〜3 年くらい、なるべく町内会長の負担を減らそうと、そういう例は出始めていました。広報部会も同じようにやるとすれば、部会の中から、町内会長だと数が限られるから、各部会に張り付けている 2〜3 人のうち、ある程度慣れた人が良いでしょうから、やりたいと思う方がおられるかどうかです。各町内から 1 人ずつ出て来ていますから、そこで部会長を見つけるのが良いのかもしれませんが。それとも、委員会方式で日の里全体から見つけてくる方が良いのか、そこ辺りではないですかね。

【委員 18】最大の課題は、募集をした時に手を挙げる人がいるかどうかなんです。昔、広報部会で編集をしましたが、1〜2 ヶ月は継続性があつたが、毎月それをやろうと思ったら、専門的な人に聞かないとできない。それで無理だったから、今の方式に戻ったのです。一番深刻なのは、スキルが必要だということだが、そういう方々は大抵仕事をやっています。人がいない時どうやっていたかと言うと、町内会長が強制的に 2 人入ってやっていました。ところが、委員会方式にしたら、強制的な所もなくなり、持続できなくなるから、町内会長にはご苦労だが、2 年間なっていて、それでやってきている。それがなくなった時に本当に持続できるのかという課題もある。

【委員 7】町内会長が強制的にするのも、一般の人をお願いするのも、同じ比重だと思います。町内会長に強制的に「委員長をやってください」と言えば、「それなら辞めます」という可能性もあります。それで委員会で継続してやってくれる方がいたらそれで良い。会長だから継続するとは限らないです。だから、部会のままでも、委員会に変わっても同じです。

【委員 16】今のが良いか悪いか知りませんが、各部会長は新しい役員の誰かがなるんですよね？前部会長は副部会長として支援するんですよね？素人ではない前部会長が副部会長になって、新任の部会長を補佐して、やっているんだから。それで今まで成り立ってきているのだから。それを全部潰してしまったら、委員の方がずっと回っていけば良いが、委員 18 が言われるように、手を挙げないようになったら、どうしますか？となります。手を挙げる人はいないですよ。

【委員 7】だから、手を挙げる人がいないということは、日の里の広報誌がこのまま無くなっても良いということになってきます。

【委員 16】それをなんとかカバーしようとして、今、議論している。

【委員 7】そういうことはつきりと頭に置いておかないと、結局誰も手を挙げない。そして、町内会長がクジか何かで強制的にすることになりますよね？「あなた、広報ですね」「じゃあ、あなたが会長してください」「いや、私も一般の人が手を挙げないのと

一緒に、私も仕事があります。そこまで参加できません」「その仕事と広報日の里を発行するのと、比重はどうですか？」と。それは誰でも生活を犠牲にしてまではやりません。だからと言って、「他に誰か代わりにできる人はいませんか？」と聴くと、「私もしません」「私もしません」と言う可能性もあると思う。それが一番のネックなのではないですか。

【委員 18】そういう人は一つのことだけだったらできなくもないけど、あれもこれも一人がやろうと思ったら、みんな仕事があり、同じ事情だから、「良いですよ」と手を挙げる人は非常に難しい。だったら、早い話、ホームページに全部投稿して、事務局がその中から記事と写真を引っ張って、機械的に発行するとか。

【委員 7】そうですね。やり方の一つだろうと思います。

【委員 18】そのためには各部会もホームページに投稿して、一番良い記事を拾い上げると。要するに、コストをかけていかないと、ボランティアではできないからですね。色々な選択があります。

【委員 12】色々な委員を決める時、なかなか手が挙がらないです。だから、手を挙げる方式でやるというのは無理だろうと思います。ですから、やっぱり部会の委員として、各町内から出さざるを得ないと思います。その時、部会員として出した方が良いのか、ただ名前だけを変えれば、同じ仕組みで出すことができますが、委員として出した方が良いのか、じゃあどっちでも良いではないか、となりますね。そうすると、一番要はトップをどうするかだと思います。例えば、広報は協議会全体の顔みたいなものだから、副会長が委員長を、副委員長がホームページと広報誌を担当して、広報誌担当の方が役員会に出るとか。何かそういった具体的なことを考えていかないと、なかなか煮詰まらないような気がします。そういう方が良いのか、やはり部会として今までの形の延長線上でやっていくのが良いのかの選択になるのではないですかね。

【前広報部会長】皆さんのお話を伺っていたが、空中戦ですよ。実際の新聞作りは、地上で歩兵がローテーションして作るのです。我が広報日の里では、皆さんの認識があるのかどうか知らないが、広報部会員 1 という優れた編集者がいてくれるから、やっていけるのです。私は過去に確かに記者をしたし、デスクもやりましたが、広報日の里を紙面化するのは広報部会員 1 がいるおかげです。あの人はキャリアも長いし、仕事が速い。広報部会員 1 がいなかったら、編集から印刷業者に任せないとできない。だから、皆さんの議論を聴いていて、確かに基本方針を決めるのは大事ですが、私に言わせれば、新聞というのは手作業です。現場仕事です。また、広報部会員 1 がお元気なようだから助かってますが、いなくなったらどうするのだろうと、私はこれが最大の問題で、広報日の里の危機になると思っています。

【浦副委員長】それは、部会なのか委員会なのか関係ないのではないですか？ どちらの体制でも構わないのではないですか？

【前広報部会長】広報部会員 1 はあなた方が「やってください」とお願いなされば、続

けてくださるでしょうね。

【浦副委員長】ですから、広報部会であるか広報委員会であるかに関係ないのではないですか？

【前広報部会長】関係ないが、実は新聞作りで一番大事なのは、そこなのです。我々は編集会議をやります。記者は大層な意見を色々と言いますが、結局最後は書くのは誰かということになります。広報部会員 1 がもし病気・事故とかでエラーがあったら、次の号が出ません。広報部会員 1 が元気なうちに、編集スタッフを二の矢三の矢の用意は考えておかれた方が良くと思います。

【浦副委員長】分かりました。この前の委員会でお願ひしたことですが、8月1日（水）に会合を持たれて、広報部会として、この件はどういう結論を出されたのですか？私が特にそのことをお願いしますと申し上げたのですが、いかがでしたか？

【委員 10】結論を言うと、私たちは皆さん方に「1年間どういう活動をしているか」という基本的な姿勢を話ただけです。結論は出ていません。「1年間どういう形でやっている」「日の里での広報でいこう」という話を皆様方にご理解いただき、それをいずれ、どういう風な形で持っていくということではないです。だから、それは今回、前広報部会長と委員 21 がある程度、議論を踏まえた上で、最終的に私たちは「こういう風になりましたよ」というのを 10月1日（月）の広報部会でお話するようにしています。だから、今結論は出ていない。

【委員 3】私が今、お話を伺っていて思ったことは、やはり新聞を作るというのは、特殊な能力がないと現実できないと思うのです。前広報部会長が先程、現場が大事だという話をされました。だから、やはり現場を大事にするということは一番大事なことで私は思います。今の広報部会の人たちの意見をベースにして決めるべきだと私は思っています。

【前広報部会長】話がまた元に戻りますが、黒川さんが広報部会を広報委員会に改組されると言われる、思い立たれた動機はどこにあるのですか？今もずっと論議は多岐に渡っていますが、何のために改組しなくてはいけないのか。改組される分は少しも構いませんが、あなたが思い立った改組しなくてはいけない動機が何なのか？そこら辺が私たちに伝わっていないのです。

【黒川委員長】何回も何回も言うから、自分の言っていることが何を言っているのか、分からなくなってきました。

【前広報部会長】それが伝わっていないから。あなたが何回も言ったつもりでも。

【浦副委員長】私は黒川委員長とは少し意見が違いますが、委員会会則の中で謳っているホームページの責任者を広報委員会の中で一人設けていただきたいということと、そのホームページに協議会の活動状況を推進する形でも良いからを載せることに留意してほしい。これからの時代、情報網の発達のプロセスを考えると、どうしても紙の上での情報伝達だけでは物足りない。アーカイブとして残らない。詳しく残せない。そういう

所をぜひ残したいという趣旨で、広報会則を作ったのです。変えたのです。せめてそこだけは改革していただきたいのです。部会でも委員会でも、どちらでも構わないのですが、そこは理解していただけますか？

【前広報部会長】ホームページに関して、私はノータッチだから。

【浦副委員長】ですが、時間が流れていっているわけです。これは3丁目の町内会長がおっしゃったように、じいさんばかりで議論しては、若い世代に引き継げない。あるいは、委員18が書かれたように、時間が移っています。情報を広く伝達し、且つ残すためには、今、改革しておかないといけないのではないかと考えです。

【委員14】第2回組織改革特別委員会で規約の提案があり、そこはかなり議論して、まとまったところで、執行部の方でまとめたものを今日お出しいただければ良かったのに、議論が煮詰まっているのですよ。それは前広報部会長にご理解いただきたいです。委員会や部会という話ではないです。委員21にも関わっていただいて、まとまってきたものですから、それをステップにしてまた議論しなければ、また戻ってしまいますよ。もう一度、前広報部会長に言いますと、根っこである委員会にすべきか、部会で残すべきか、あるいは部会の在り方を変えるか、その議論はこれから先の議論ですから、それを少し理解してください。というところで、お願いしたいのは、成案はまとまっているはずですから、それを出していただいて、議事録みたいに承認という形にしていだけませんか？それをステップに階段を踏み上げていかないと、また戻ってしまうのですよ。

【前広報部会長】だから、話を蒸し返したのではないかと。その点は大変申し訳ないと反省しています。

【委員14】いやいや、蒸し返したとは申しません。そういうステップがありまして、委員会・部会というのは前広報部会長の個人的なご意見で、私はそれについてはどちらでも良いという意見なので、その辺について、これから議論を積み重ねていきますから、前広報部会長の見解もまた意見として活かして、進めていけると思います。

【委員21】平成25年に私が町内会長をやった時、私は広報部会を希望しました。部会長もやりましたし、前年からホームページ推進委員をやりましたから、おそらくその年だけだったかと思いますが、ホームページの色々な状況を毎月、役員会で報告しました。次の年からは、ホームページを見たこともない、知識もない方が部会長になられたから、当然役員会に出て、ホームページに関しての報告がほとんど無かったと思います。私はホームページの推進委員をやっているのですが、2ヶ月に1回、あるいは3ヶ月に1回でも良いから、ホームページの推進委員が役員会に出席して、報告・お願い・推進・支援すれば、今の広報部会のままで、先程の浦副委員長の希望が実現できるのではないかと思います。それは今の部会の推進委員が、ここでいう副委員長格になると思いますが。それはこの前、言いました、役員になるとは別として、広報委員長及び副委員長が役員会に出席することで済むのではないかと思います。広報部会には推進委員がちゃんといますから、そういう要求には応えられます。今の浦副委員長の話は解決できるので

はないかと思います。もちろん、私の後任には、そういうことができる人を広報部会の中でリクルートしていくことが必要だろうと思います。

【浦副委員長】だから、お願いしたいことは、会則を部会でしっかり皆さんで議論していただきたいのですが。ああいう会則で良いのかということ。

【委員 21】だから、あれは委員会でしょう？

【浦副委員長】あれを部会と読み替えていただいて良いのですが。

【委員 21】規約ではないが、部会の中で、今までは広報部会は「こういう仕事をしますよ」というのを、この前、委員 10 が出していました、もう一つ、さらに「ホームページに関しては今年このような項目でやります」と、まとめてお出ししました。

【浦副委員長】やはり、協議会の伝達事項、あるいは役員会で決まったことを公にするということは、ある程度会則として義務付けておかないと、残っていかないのではないですか？

【委員 21】それをニュースにしてほしい側の問題になっているのです、今は。だから、役員会の下請け仕事みたいなことは、非常にやりたくないわけです。むしろ、取材に行き、こういう議論があるので、それはぜひ広報に載せたいということであって、先程黒川委員長がおっしゃった、各部会の活動について全然出てこないというのは、なぜかと言うと、全体会議に各部会の代表が出てくることになっているのだが、出席率がいたって悪いわけです。ですから、ニュースソースがこちらに伝わらないわけです。私が平成 25 年に広報部会長をやった時は、当時の協議会会長がまちづくり委員会にも関係されていて、広報に載せてくれと再三来られたから、かなり記事に載っていたと思います。一方で、まちづくり委員会の審議事項をぜひ載せたいと広報部会が言ったが、予算が市議会で認められる前に公になっては困るので、絶対載せないでくださいというやり取りがあった。取材に行く方が大変なため、会長側からの働きかけは大事だと思います。

【浦副委員長】広報誌はみんなで作った協議会の決定事項を地域の中に正確に伝えるという責任を持っていると思うので、それはぜひ載せていただきたいと思います。

【委員 21】載せていただきたいのだったら、ニュースソースを持ってこなきゃ載せられないですよ。今までは持ってくる努力が欠けていたと言うべきだと思います。

【浦副委員長】紙面の関係で広報誌には無理だとしたら、少なくともホームページには十分な余裕があるから、きちんと協議会のことが載るようなシステムにしたい。

【委員 21】それは担当者さえいれば、いつでもできることですよ？事務局員だっているではないですか。

【浦副委員長】だから、やはり会則として書いておく必要がある。

【委員 14】僕もそうだったのだけど、広報の中にホームページがありますよね？あれをどんどん投稿してくださいと、広報日の里は市の機関紙ではないから、日の里地区の発信の役割ですよ。それには原稿の提案を出していただかないといけない。それを上手く編集して出す。その辺が混乱しがちだから、ホームページの上げ方と広報日の里の

上げ方が。それから、私は福祉会で原稿をまとめて、広報で何回も取り上げていただいています。広報日の里は言われて出ただけだったのが、取材に来ていただいて、綺麗にまとめていただく機能が出てきました。僕の出した原稿は面白くもおかしくもないけど、取材してもらって、住民向けに分かりやすくまとめると、同じ情報でも全然違うのです。良くなったなあと思いました。

【委員 21】今、委員 14 がおっしゃったように、ホームページは容量に制限がなく、いくらでも載せられます。広報日の里の方は裏表 2 面しかないです。ですから、例えば、協議会の役員会で決定事項があったら、それを広報担当の事務局員に載せてくれと言えば、どんどんやってくれているはずであって、ホームページ推進委員が働かなきゃいけないということは何もないと思うのです。それを広報のホームページ推進委員にやらせようという魂胆が見えるのが非常に不愉快です。

【委員 8】部会と委員会の話に戻りますが、私は部会と委員会の違いが分からないので、たいして変わらないというイメージがあります。委員会として、専門的に広報活動（広報誌・ホームページ）をしてくれる人を求めて、いないということであれば、今まで通り、会長 2 人が委員となり、徐々に委員会へ変える方向でやる。もしくは、今までの部会と同じような活動ができる体制でやると良いのではと思います。急に部会から委員会に変わるというイメージが全然繋がらないので、とりあえず移行期間が必要ではないかと思います。議論されているホームページに関しては、その体制ができてからやっていただけたら、本当に良い話だと思います。委員会にするか、部会のままにするか、皆さんには、どちらでも良いという意見があり、専門的な人がいないため、部会の仕事にせざるを得ない事情もあるということです。先日の広報部会でもそうでしたが、広報経験者の人は意見もありますが、今年なったばかりの人に聴いても、分からないのが実情でした。私は委員会としてやっていきたいと思いますが、移行期間として部会の形の委員会にできないかと思います。

【前広報部会長】黒川委員長からきちんとした申し出をされたわけではないが、協議会の決定事項を広報日の里に載せてほしいと口頭でおっしゃったことはありました。浦委員も先程言われましたが、原稿を書いて出してくだされば、NOとは言いませんよ。原稿が出てなくて、そんなこと言われたら困っちゃう。

【委員 13】さっき前広報部会長が「広報部会員 1 に何かあったら何もできない」「第 2・第 3 の人を作った方が良い」と提案をされたので、委員 8 がおっしゃった委員会に移行するという形で、割り付けができる人を育成することが必要だと思いました。前広報部会長が読みやすいように添削してくださっているように、すでに専門的にされている部会になっています。2 ヶ月に 1 度、部会に行かせていただいた時、皆さん来られているが、何も意見が出ないから、できれば、委員 8 がおっしゃったような移行する形でやっていった方がやりやすいと思います。急にやるというより、委員会の中に町内会長さんが入ってもらえるか分からないが、自然に変わっていった方が良いと思います。少しずつ

つ若い人が入っていけるような仕組みを作っていた方が良いと、皆さんの意見を聴きながら思いました。

【前広報部会長】コミュニティ運営協議会から原稿が出なくても広報誌はできるけど、もし広報部会員 1 が交通事故にあったら、その次から広報誌は出ませんよ。

【委員 13】前広報部会長が心配されているから、やっぱり委員会として専門的に…

【前広報部会長】協議会の原稿は浦委員も言われたが、そんなに決定事項を広報日の里に載せたいのであれば、出してくださいよ原稿を。原稿を書いて出さないで言ったってしょうがないよ。出された原稿をボツにした経験はないですな。

【委員 21】前の協議会会長は盛んに持ってこられました。前広報部会長が怖くて持って来られないですかね。

【前広報部会長】私が懇切丁寧に添削して差し上げております。

【委員 12】委員 14 が言われたように、今まで固まった部分の議論が空回りしていますよ。だから、黒川委員長が本当に委員会であるべきだという思いについて理念と組織図を合わせて提示いただきたい。協議会の全体の組織図は委員 18 が出していただいておりますから、それも総合的に考えて、どういう組織図が良いのか、その中で、広報委員会をどこに位置づけるのかということも含めて、一度、絵を出してもらったら一番良いと思います。この図を見ると、広報が役員会の後ろにくっついているように見えるから、これはやっぱりあまり良くないと思います。委員 18 が作ったものは色々な部分に伸びているような絵になっています。そういう所も含めて、委員会なら委員会の在り方、活動方針を含めて、どういう位置づけで、どういう形にするのが良いのかということも組織図の中に落とし込まないといけないでしょう。そういう物を作っていただけませんか？ こういう所に置くのだから、部会より委員会の方が良いというのが見えないと、部会の所に置いても一緒ではないかというようであれば、部会で良いように思います。だいぶ議論が進んできたから、まとめとして、そこを詰めていただくと良いのではないかという気がします。そうしないと、ぐるぐる回るだけのような気がします。これはまずい、元に戻った方が良いというのであったら、そうなるでしょうし。

【委員 21】さっき私が言いましたが、ホームページについては、全く未経験の人が広報委員長なり部会長なりになられることが多いから、ホームページ担当の委員が役員会に出席して、ホームページの推進・維持・発展を報告し、お願いするというチャンス을設けていただくようにしていただけると良いかと思います。わざわざ、自分で仕事をしようとしているようですが、私は委員 18 が言われているように、日の里のホームページは非常にユニークだと思います。ぜひ発展させたいと思うのです。私もいつ交通事故に合うか、分からないですが、元気なうちはしたいと思っています。

【浦副委員長】私も同じ意見です。必ずしも部会長にしる、委員長にしる、分からなくても副委員長でも良いから、ホームページに関してメモを作っていただいて、そのメモを持って、役員会に出席して、行われたことを報告さえすれば良いと思うのです。

【委員 21】私はそれだけでは駄目だと思います。出席して、ホームページに載せるべきだという感覚があるのです。まさにそれは取材だと思います。メモを読み上げるだけでは、配るだけの話ですから。さらに私の希望を言うと、その人が出席した時は必ずホームページを映写できるという風にしてもらいたいです。

【委員 18】課題の一つは、組織と人の話です。人が潤沢にいれば、極端に言えば、部会と委員会のどちらでも上手くいくと思います。役員会と部会のルートの両方で、ホームページと広報日の里の担当者を公募する。各組長会議で議題にして、「やってくれる人がいませんか?」「ぜひ、入ってほしい」というのを丹念にやっていく。それで出てくれば、ありがたいです。ただ、極力ハードルを低くして、ある程度、頭数を揃えて、今までできていた皆さんの要件等を整理して、実際にやってみて、人がくれば、あるべき組織の形になっていける。過去の実験で言えば、広報部会でやっても駄目だった。役員会からでも推薦していくという形を取ってみたいらどうかと思います。

【委員 10】だいたいまとまってきたようですね。浦副委員長、もう決めてください。それに従います。副会長がある程度、広報部会のトップにいて、文章的にどうなのか判断していただかないと、私たちは書かれた記事をお願いしますけど、最終的に発刊する人の基本的な姿勢が見えてくれば、私たちはそれに従います。委員会にするというなら、私は広報から降ろさせていただいて、一市民として広報を閲覧させていただきます。そうしないと、若手にしてもらおうのだったら、ある程度その人たちに任せていかないと、私たちが何もかも口出しする必要はない。それまでの基本というのは、前広報部会長・委員 21・委員 18 たちが詰めていますので、それで大丈夫だと思う。今から作るのではないので。400 何ぼと出てきているので。文章もちゃんと前広報部会長が現代仮名使いにさせていただいておりますので、その次やる人は非常に楽だと思いますよ。今まで文章の面で積み重ねがなかったので。他に女性もいるので、女性の意見も聞いてもらって。私はそう思います。

【前広報部会長】全く同感です。

【黒川委員長】分かりました。じゃあ今、締めていただきましたので、以上で終わりたいと思います。議論は出尽くしたと思いますので、次回どちらにするかということと、先程言われた広報委員会に関して決まったことの文書を提示させていただいた上で、採決したいと思います。どうも今日はありがとうございました。

次回は8月23日（木）19：00～
コミュニティ・センター日の里会館 コミュニティルーム
（今後9月末まで毎月第2、第4木曜日に開催予定）

《出席者》

【組織改革特別委員】

黒川委員長（コミュニティ運営協議会会長）
浦副委員長（コミュニティ運営協議会副会長）
飯塚委員（コミュニティ運営協議会副会長）
緒方委員（コミュニティ運営協議会事務局長）
山村委員（平成29年度7丁目町内会長）
岡本委員（平成29年度3丁目町内会長）
西山委員（AP1区町内会長・広報部会副部会長）
島本委員（教育文化部会部会長）
廣瀬委員（広報部会副部会長）
大城委員（平成29年度2丁目町内会長）
永嶋委員（まちづくり推進特別委員会）
大平委員（日の里地区福祉会会長）
池淵委員（ひのっこサロン代表）
高尾委員（6丁目代表）
谷委員（平成29年度8丁目町内会長）
松尾委員（ホームページ推進委員）
牛島委員（広報部会部会員）
市川委員（広報部会部会員・前広報部会長）
山本委員（AP2区町内会長・健康福祉部会部会長）
【宗像市役所コミュニティ協働推進課】平川係長

《欠席者》

大島委員（コミュニティ運営協議会会計）
田和委員（生活環境部会部会長）
山本委員（広報部会部会員）
梅田委員（3丁目代表）